

## 第4章

### 診療参加型臨床実習等における 経験と評価の記録 案（例示）



## 経験と評価の記録

卒前教育における診療参加型臨床実習を推進するにあたり、Kolb の経験学習論を参考に、学生が診療現場で経験した内容およびそれに関して振り返った内容を、記録して学習履歴として残すこと、またその内容をもとにして臨床実習で学生の評価を行うことを目的に、この「経験と評価の記録」を作成した。

作成にあたっては、まず全国 80 大学医学部の臨床実習実施要綱および実習手帳をレビューした。また、英国の初期臨床研修(Foundation Programme)のポートフォリオや、米国医学教育学会(Association of American Medical Colleges)が近年臨床実習に導入した eFolioなどを参考にした。そして錦織・古屋・井上の 3 名がたたき台を作成し、他の研究班の委員の先生方および研究班で開催したシンポジウムに参加いただいた全国の医学教育家の先生方からのご意見を参考にブラッシュアップを重ねた。

この「経験と評価の記録」の特徴としては、まず、学生に **Ownership** を持たせたことがあげられる。学生が主体的に書きこんで、そこに教員などがサインやコメントを入れていくことで、学生と教員をはじめとする指導者側とのコミュニケーションの助けとなればと考えている。また、コンピテンシー基盤型カリキュラム開発の考え方を取り入れ、実習の初日に教員と行動で学習目標を設定することを推奨した。このことによって、教員－学生間の学習目標のギャップが埋まり、適切な臨床実習が実施されると期待する。さらに振り返りを重視したことも特徴である。臨床実習においてはポートフォリオ型の評価が国際標準になりつつあるが、我が国の事情に合った形でその概念を導入できるようになることも期待したい。「知っているかどうか？」ではなく「できるかどうか？」を評価することを目標としている。

なお、この「経験と評価の記録」の内容はあくまでモデルとして提示したものであり、各大学の事情に合わせて適宜追加／修正／変更することを妨げない。また A4 版で作成してあるが、これも各大学の事情に合わせて、電子版にしたりするなど、工夫を期待する。

最後になるが、この「経験と評価の記録」を作成するにあたり、全国の大学医学部の医学教育担当者に臨床実習実施要綱および実習手帳を提出いただいた。この場を借りて御礼申し上げる。

主分担：錦織 宏（京都大学）  
古屋 彩夏（JR 東京総合病院）  
井上 玄（千葉大学）



# 診療参加型臨床実習等における 経験と評価の記録 案(例示)

平成 23 年度文部科学省先導的<sub>な</sub>大学改革推進委託事業  
医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究 医学チーム



## 診療参加型臨床実習等における「経験と評価の記録」 目次

1	目次
2	「経験と評価の記録」の使い方
全科共通	
5	私が目標とする医師像
7	大学・附属病院の教育理念・目標
9	医師として求められる基本的な資質
11	臨床実習の到達目標(全国版)
19	臨床実習で経験可能な医行為の経験度
21	臨床実習前の確認事項
23	臨床実習開始までの学習履歴
25	研究活動の記録
各診療科	
29	個別の学習目標設定(学習契約)
31	実習日誌
33	担当入院症例病歴要約
35	担当外来症例一覧
37	簡易版臨床能力評価表
39	症例の担当に関する評価表
41	多職種による学生評価(360° 評価)
43	患者さん(含模擬患者)からの感想
45	ローテーション終了時の振り返り
46	ローテーション終了時の指導による評価
47	学生による臨床実習の評価

## 「経験と評価の記録」の使い方

臨床現場へようこそ！

いよいよ、実際に患者さんのいる病院での、皆さんの臨床実習が始まります。これまでの講義や試験で多くの医学知識・技能を身につけてきたと思いますが、これからはそれらを「知っている」だけでなく「できる」ことが求められるようになります。臨床現場で色々と経験して学ぶことを期待します。

この「経験と評価の記録」ですが、これはみなさんの「学び」をサポートするためのツールです。臨床実習などの現場でみなさんがどのようなことを学びたいのか、教員の先生たちは皆さんの行動をどのように感じているのか、などについて記録していきます。教員の先生たちとみなさんとのコミュニケーションの助けにもなりますし、またみなさんの「学習の記録」にもなります。積極的に書きこみ、また色々な教員から評価ももらって、自分のオリジナルの記録を作ってください。

この「経験と評価の記録」の使い方ですが、大まかには以下の通りです。また各ページの最初に、内容についての説明も書かれてあります。詳細については担当科の教員の先生とも相談して下さい。

1. 臨床実習が始まるまでに「臨床実習前の確認事項」「臨床実習開始までの学習履歴」を記入しておく
2. 臨床実習が始まったら、初日のオリエンテーションの際に、該当科の「個別の学習目標」のところに教員と協同して自分の学習目標を決めて書きこむ。
3. 実習日誌を使って、毎日、実習が始まる前にその日の目標、実習が終わった後にその日の振り返りを書く
4. 一日単位で、担当の教員から出席のサインをもらう
5. 担当した入院症例・外来症例のサマリーをまとめる
6. 簡易版臨床能力評価表を各科あたり2~4回、指導医に記入してもらう
7. 担当した症例と一緒に診ている指導医に、症例の担当に関する評価表を記入してもらう
8. 指定された医師以外の医療スタッフに360°評価を記入してもらって、該当科の担当教員に提出してもらう
9. 担当した患者さんやお世話になった模擬患者さんに感想を書いてもらう
10. 一つの科で臨床実習が終わる日(教授諮問や教員とのまとめの日)までに、「ローテート終了時の振り返り」を書きこんでおく
11. 一つの科で臨床実習が終わる日(教授諮問や教員とのまとめの日)までに、指導医に「ローテート終了時の指導医による評価」を記入してもらう
12. 一つの科で臨床実習が終わったら、その科の評価を記入して教務係に提出する



# 全科共通



## 私が目標とする医師像

臨床実習が始まるにあたり、自分がどのような医師になりたいと思っているのかを明文化しておきましょう。今後色々な経験があると思いますが、そのたびに、原点に立ち戻るために役立ちます。

年 月 日

私は将来こんな医師になりたい

目指す医師になるため、臨床自習でこんなことを目標にします。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

学籍番号

氏名

PHS



## 〇〇大学医学部の教育理念

〇〇大学医学部の目的は生命科学、医学、医療の分野の発展に寄与し、国際的指導者になる人材を育成することにある。すなわち、これらの分野における問題の的確な把握と解決のために創造的研究を遂行し、臨床においては、その成果に基づいた全人的医療を実践しうる能力の涵養を目指す。

## 〇〇大学医学部附属病院の理念

理念：本院は臨床医学の発展と医療人の育成に努め、個々の患者に最適な医療を提供する。

### 目標

- 患者の意思を尊重する医療の実践
- 安全な医療の提供
- 高度先進医療の開発
- 優れた医療人の育成



## 医師として求められる基本的な資質

医師として働くようになるためには、豊富な知識や優れた技能だけでなく、しっかりとした資質や態度が求められるようになります。臨床実習が始まる前に以下を必ず読み、いま一度、志を新たにしましょう。

### （医師としての職責）

- ・ 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚する。

### （患者中心の視点）

- ・ 患者およびその家族の秘密を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ。

### （コミュニケーション能力）

- ・ 医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。

### （チーム医療）

- ・ 医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。

### （総合的診療能力）

- ・ 統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。

### （地域医療）

- ・ 医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力する。

### （医学研究への志向）

- ・ 医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。

### （自己研鑽）

- ・ 男女を問わずキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

医学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－  
平成 22 年度改訂版より





## 臨床実習の到達目標-コアカリより-

この「臨床実習の到達目標」は、全国の医学部で共通に使用しているものです。本学の診療科ごとに到達目標も設定されていますが、自分の学んだ／経験した内容を確認するために使用して下さい。各項目の横にある□は学生の自己評価チェックに使用して下さい。また適宜、教員の先生にコメントをもらってください。

### 1 診療の基本

#### 【問題志向型システムと臨床診断推論】

- 1) 基本的診療知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。 □
- 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。 □
- 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。 □
- 4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。 □

教員のコメント

---

教員のサイン

---

#### 【科学的根拠に基づいた医療】

- 1) 感度・特異度等を考慮して、必要十分な検査を挙げることができる。 □
- 2) 科学的根拠に基づいた治療法を述べることができる。 □

教員のコメント

---

教員のサイン

---

#### 【診療記録とプレゼンテーション】

- 1) 適切に患者の情報を収集し、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる。 □
- 2) 診療経過を SOAP(主観的所見・客観的所見・評価・計画)で記載できる。 □
- 3) 症例を適切に要約する習慣を身につけ、状況に応じて提示できる。 □

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 2 診察法

### 【基本事項】

- 1) 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。
- 2) 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。
- 3) 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。
- 4) 感染を予防するため、診察前後の手洗いや器具等の消毒ができる。
- 5) 挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。
- 6) 患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

### 【医療面接】

- 1) 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者に接することができる。
- 2) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
- 3) 病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー)  
を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。
- 4) 診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

### 【全身状態とバイタルサイン】

- 1) 身長・体重を測定し、BMI の算出、栄養状態を評価できる。
- 2) 上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。
- 3) 両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。
- 4) 呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。
- 5) 腋窩で体温の測定ができる。
- 6) 下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定(触診法)、大腿の血圧測定(聴診法)  
を実施できる。
- 7) 意識状態を判定できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

**【頭頸部】**

- 1) 頭部(顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋)の診察ができる。
- 2) 眼(視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜)の診察ができる。
- 3) 耳(耳介、聴力)の診察ができる。
- 4) 耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。
- 5) 音叉を用いて聴力試験を実施できる。
- 6) 口唇、口腔、咽頭の診察ができる。
- 7) 鼻腔、副鼻腔の診察ができる。
- 8) 鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。
- 9) 甲状腺、頸部血管、気管を診察できる。
- 10) 唾液腺、頭頸部リンパ節の診察ができる。
- 11) 眼底検査を実施できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

**【胸部】**

- 1) 胸部の視診、触診、打診ができる。
- 2) 呼吸音の聴診ができる。
- 3) 心音と心雑音の聴診ができる。
- 4) 背部の叩打痛を確認できる。
- 5) 乳房の診察を実施できる(シミュレータでも可とする)。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

**【腹部】**

- 1) 腹部の視診、聴診ができる。
- 2) 区分に応じて腹部の打診、触診ができる。
- 3) 腹膜刺激徴候の有無を判断できる。
- 4) 腹水の有無を判断できる。
- 5) 直腸(前立腺を含む)指診を実施できる(シミュレータでも可とする)。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 【神経】

- 1) 意識状態を判定できる。
- 2) 脳神経系の診察ができる(眼底検査を含む)。
- 3) 腱反射の診察ができる。
- 4) 小脳機能・運動系の診察ができる。
- 5) 感覚系の診察ができる。
- 6) 髄膜刺激所見を確認できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 【四肢と脊柱】

- 1) 四肢と脊柱を診察できる。
- 2) 関節(関節可動域を含む)を診察できる。
- 3) 筋骨格系の診察ができる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 【高齢者の診察】

- 1) 高齢者特有の身体・精神の変化をふまえて高齢者を診察できる。
- 2) 高齢者の総合機能評価<CGA>および老年症候群の診察ができる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 3 基本的臨床手技

## 【一般手技】

- 1) 体位交換、おむつ交換、移送ができる。
- 2) 皮膚消毒、包帯交換ができる。
- 3) 外用薬の貼付・塗布ができる。
- 4) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
- 5) ギプス巻きができる。
- 6) 静脈採血を実施できる(シミュレータでも可とする)。
- 7) 末梢静脈の血管確保を実施できる(シミュレータでも可とする)。

- 8) 中心静脈カテーテル挿入を見学・介助してシミュレータで実施できる。
- 9) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学・介助してシミュレータで実施できる。
- 10) 腰椎穿刺を見学・介助してシミュレータで実施できる。
- 11) 胃管の挿入と抜去ができる。
- 12) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる(シミュレータでも可とする)。
- 13) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助ができる。
- 14) 注射(皮下、皮内、筋肉、静脈内)を実施できる(シミュレータでも可とする)。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

**【外科手技】**

- 1) 清潔操作を実施できる。
- 2) 手術や手技のための手洗いができる。
- 3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- 4) 基本的な縫合ができる。
- 5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- 6) 手術に参加し、介助ができる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

**【検査手技】**

- 1) 尿検査(尿沈渣を含む)を実施できる。
- 2) 末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
- 3) 微生物学検査(Gram(グラム)染色を含む)を実施できる。
- 4) 妊娠反応検査を実施できる。
- 5) 血液型判定を実施できる。
- 6) 視力、視野、聴力、平衡検査を実施できる。
- 7) 12誘導心電図を記録できる。
- 8) 脳波検査を介助できる。
- 9) 心臓、腹部の超音波検査を介助できる。
- 10) エックス線撮影、CT、MRI、核医学検査、内視鏡検査を見学・介助できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

#### 4 診療科臨床実習

##### (1) 内科系臨床実習

###### 【内科】

- 1) 主要な内科疾患を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 2) 他科へのコンサルテーションの必要性について説明できる。
- 3) 複数の疾患をかかえる患者を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

###### 【精神科】

- 1) 精神科疾患の診察を見学し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 2) 精神症状をもつ患者の診療を行う上での、法と倫理の必須項目を列挙できる。
- 3) 精神症状・精神障害の初期症状と、どのような場合に専門医へのコンサルテーションが必要か説明できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

###### 【小児科】

- 1) 小児の診断・治療に必要な情報を保護者から聴き取ることができる。
- 2) 正常新生児と主な小児疾患の全身診察ができ、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 3) 乳幼児健診を見学し、小児の成長・発達と異常の評価に参加できる。
- 4) 専門医へのコンサルテーションの必要性について説明できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

##### (2) 外科系臨床実習

###### 【外科】

- 1) 外科的処置の適応を判断し、リスク評価を説明できる。
- 2) 基本的な術前術後管理に参加できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 【産婦人科】

- 1) 基本的な婦人科診察を実施できる(シミュレータでも可とする)。
- 2) 主要な婦人科疾患の診察を見学し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。
- 3) 妊婦の診察と分娩を見学する。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## (3) 救急医療臨床実習

- 1) 救急病態の救命治療に参加できる。
- 2) 初期救急病態を鑑別し、初期治療に参加できる。
- 3) 外傷の処置に参加できる。
- 4) 一次救命処置(心肺蘇生を含む)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

## 5 地域医療臨床実習

- 1) 地域のプライマリ・ケアを体験する。
- 2) 病診連携・病病連携を体験する。
- 3) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。
- 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。
- 5) 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。

教員のコメント

---

教員のサイン

---

医学教育モデル・コア・カリキュラムー教育内容ガイドラインー  
平成 22 年度改訂版より





## 臨床実習で経験可能な医行為の経験度

経験した手技についてチェックをつけ、指導医のサインをもらいます。積極的にこれらの手技に関わっていきましょう。なおシミュレータと書かれた項目については、シミュレータで十分に経験を積んでから診療現場で実施するようにします。

### 一般手技

	できた	体験した	見学した	指導医 サイン		できた	体験した	見学した	指導医 サイン
体位交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		ギブス巻き	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
おむつ交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		静脈採血 (シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
移送	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		末梢静脈確保 (シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
皮膚消毒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		胃管挿入 (シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
包帯交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		尿道カテ挿入抜去 (シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
外用薬貼布・塗布	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		注射(皮下・皮内・ 筋肉・静脈内) (シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
皮膚消毒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		診療記録	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
気道内吸引 (シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
ネブライザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
書類の全てに学生の署名と指導医の署名が必要									

### 外科手技

	できた	体験した	見学した	指導医 サイン		できた	体験した	見学した	指導医 サイン
清潔操作	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		縫合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
手洗い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		消毒・ガーゼ交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
ガウンテクニック	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

### 検査手技

	できた	体験した	見学した	指導医 サイン		できた	体験した	見学した	指導医 サイン
尿検査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		血液型判定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
末梢血塗抹標本	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		視力・視野	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
微生物学的検査(G 染色含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		聴力				
妊娠反応検査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		平衡検査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

### 診察手技

	できた	体験した	見学した	指導医 サイン		できた	体験した	見学した	指導医 サイン
医療面接	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		鼻鏡	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
診察法(全身・各臓 器)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		眼底鏡	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
基本的な婦人科診 察(シミュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		直腸診察(シミュレ ータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
バイタルサイン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		乳房診察(シミュレ ータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
耳鏡	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

### 救急

	できた	体験した	見学した	指導医 サイン		できた	体験した	見学した	指導医 サイン
一次救命処置(シミ ュレータ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

## 臨床実習前の確認事項

### 賠償責任保険について

医療事故(針刺し事故、院内感染など)までカバーする保険に入っていますか？

(例:学研災付帯学生生活総合保険、医学生教育研究賠償責任保険など)

保険名称:

連絡先:

### ウイルス抗体価について

	抗体価(日付)	ワクチン接種(日付)
麻疹		
風疹		
水痘		
ムンプス		
B型肝炎		

実習では医療機関に来る不特定多数の人々と接する機会があり、もし感染すると自身の健康を害するだけでなく、仲間や患者さんへ感染を拡大させる危険性がある。空気感染を起こす疾患の場合、サークル活動や講義室での同席を通じて他学年や他学部へ拡大する懸念もある。したがってこれらの感染症は予防することが大切で、ワクチン接種が第一の予防策である。



## 臨床実習開始までの学習履歴

ここでは、これまでに学んできた内容について、その内容をファイルします。医学部の必修カリキュラムに加えて、課外活動などについてもまとめておきます。なお、基礎医学研究室などでの研究活動の記録については、次項の「研究活動記録」に記載して下さい。

○医の原則(医の倫理と生命倫理・患者の権利・医師の義務と裁量権・インフォームド・コンセント)に関する学習内容

○医療における安全性確保(安全性の確保・医療上の自己への対処と予防・医療従事者の健康と安全)に関する学習内容

○コミュニケーションとチーム医療(コミュニケーション・患者と医師の関係・患者中心のチーム医療)に関する学習内容

○Introduction to clinical medicine などの臨床実習開始前の実習内容

○その他(基礎医学科目の成績、共用試験の成績、部活動の優秀な成績の記録、ボランティア活動記録、これまでに読んだ本のリスト、他大学や他学部で聴講した講義の記録、など)



## 研究活動の記録

ここには、医学部在学中の研究活動(基礎研究・臨床研究)について記録します。

研究室

指導教員

研究活動期間(        )年(     )月(     )日～(        )年(     )月(     )日

研究テーマ

研究活動の概要

成果

教員のサイン

---





# 各診療科



## 個別の学習目標設定-学習契約-

このシートは臨床実習の最初に、教員の先生と行うオリエンテーションで使用するものです。最初に教員の先生から該当科の学習目標について説明がありますので、それを参考にしながら、「自分自身の(独自の)学習目標」を初日に書いて、教員の先生にコピーを提出してください。この学習目標をもとに実習を進めていきます。

※教員の先生方へ:このシートは学生と協同して学習目標を設定する際にご使用ください。先生方が期待する学習目標と、学生が期待する学習目標との擦り合わせというイメージです。またこの設定のために、必ず臨床実習の最初にオリエンテーションを行って頂きますよう、お願いいたします。

診療科 科

臨床実習における学習目標(学生が教員と共に記入)

- 1.
- 2.
- 3.

シラバスに記載されている臨床実習での教育目標

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- ...

<記入例:循環器内科>

この科の臨床実習の学習目標(学生が教員と共に記入)

1. 心電図の基本的な所見を読めるようになる
2. どのような場合に循環器内科にコンサルトしたらよいか分かるようになる
3. 心不全の急性期の管理を手伝えるようになる
4. 自分が循環器科に向いているかがわかるようになる

<記入例:精神科>

この科の臨床実習の学習目標(学生が教員と共に記入)

1. 鬱病の疑いのある患者さんが自殺しないような医療面接が出来るようになる
2. どのような場合に精神科にコンサルトしたらよいか分かるようになる
3. 精神科病棟での患者さんの管理を体験する

## 〇〇科 実習日誌

	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)	日 (金)	休日・ 当直など 日
教員サイン (出席確認)						
今日の 目標						
実習内容						
今日の 振り返り (学べたこ と・反省点 など)						

※各大学で実習内容を記入したものを学生に配布して下さい



## 担当入院症例病歴要約

提出No. \_\_\_\_\_ 診療科名 \_\_\_\_\_ 病院名 \_\_\_\_\_  
 患者イニシャル \_\_\_\_\_ 入院日 \_\_\_\_\_ 年 月 日  
 患者年齢 \_\_\_\_\_ 歳, 性別 男性・女性 退院日 \_\_\_\_\_ 年 月 日  
 受持期間 自 \_\_\_\_\_ 年 月 日  
 至 \_\_\_\_\_ 年 月 日

転帰: 治癒 軽快 転科(手術 有・無) 不変 死亡(剖検 有・無)  
 フォローアップ: 外来で 他医へ依頼 転院

### 確定診断名(主病名および副病名)

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_

【主訴】

【現病歴】

【既往歴】

【生活社会歴】

【家族歴】

【主な入院時現症】

【主要な検査所見】

### プロブレムリスト

- #1. \_\_\_\_\_
- #2. \_\_\_\_\_
- #3. \_\_\_\_\_

### 【入院後経過と考察】

- #1. \_\_\_\_\_

#2.

#3.

【退院時処方】

【総合考察】

【本症例を通して自身が感じたこと】

記載者： \_\_\_\_\_ 氏名  
担当教員： \_\_\_\_\_ 氏名



## 担当外来症例一覧

No.	診察日      年      月      日			
1	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日      年      月      日			
2	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日      年      月      日			
3	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

No.	診察日 年 月 日			
4	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日 年 月 日			
5	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No.	診察日 年 月 日			
6	病院または施設名		診断名	
	年齢		性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

## 簡易版臨床能力評価表

臨床現場で教員の先生に評価してもらうための評価表です。各科で最低2～4回程度、教員に依頼して、自分の診療活動について評価してもらって下さい。

※教員の先生方へ：入院病棟・外来・救急などにおいて、以下の評価基準・評価方法を参考に、学生が患者と関わる様子を10～15分程度観察して評価ください。

場面：救急外来・入院患者・一般外来・当直・訪問診療・その他( )

科別： 日時： 年 月 日

患者 ID: 症例の複雑さ; 易 普通 難	1	2	3	4	5	6	U/C
1. 病歴	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 身体診察	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 臨床診断(診断など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. プロフェッショナリズム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. マネジメント(治療など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 総合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

望まれる能力のある段階を4として、ボーダーラインが3、能力が明らかにそれ以下のとき2,1、それ以上あるとき5,6をつける。U/Cはコメントできないとき

良かった点	改善すべき点

評価者と合意した学習課題

評価者所属 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

学生サイン \_\_\_\_\_



## 症例の担当に関する評価表

担当患者さんへの関わりについて教員の先生に評価してもらうための評価表です。  
各科で教員に依頼して、自分の診療活動について評価してもらって下さい。  
※学生が担当した患者さんの担当医をされている教員の先生方へ: 学生の患者への関わりに関して、以下の評価基準・評価方法を参考に評価ください。

場面: 救急外来・入院患者・一般外来・当直・往診・その他( )

科別: 日時: 年 月 日

患者 ID: 症例の複雑さ: 易 普通 難	1	2	3	4	5	6	U/C
1. カルテ記載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 臨床診断	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 診療計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. プロフェッショナルリズム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 総合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

望まれる能力のある段階を4として、ボーダーラインが3、能力が明らかにそれ以下のとき2,1、それ以上あるとき5,6をつける。U/Cはコメントできないとき

良かった点	改善すべき点
-------	--------

評価者と合意した学習課題

評価者所属 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_  
学生サイン \_\_\_\_\_









## 患者さん(含模擬患者)からの感想

担当した患者さん(もしくは模擬患者さん)に以下のフォーマットに従って感想を書いてもらいます。

※このシートを受け取った患者(もしくは模擬患者)さまへ: 学生教育にご協力いただきありがとうございます。担当させていただいた学生についてコメントを頂けると幸いです。

診療科 \_\_\_\_\_

○臨床実習期間中のこの学生の行動について、自由に感想をお聞かせください。

学生の名前 \_\_\_\_\_

記入者 \_\_\_\_\_



## ローテート終了時の振り返り

このシートは、臨床実習の最後で教員の先生とのまとめに使用するものです。最初に立てた学習目標をもとに、自身の臨床実習を振り返ります。フォーマットとして、広く使用されている SEA (Significant Event Analysis) を用います。

※教員の先生方へ：このシートは臨床実習のローテート終了時の学生評価を行う際にご使用ください。

診療科 \_\_\_\_\_ 科

個別の学習目標設定(学習契約)で記入した臨床実習における学習目標

- 1.
- 2.
- 3.

a) この科の実習で出来たことは何ですか？

b) この科の実習で出来なかったことは何ですか？

c) 感じたことを書いてみます

d) 今後どのように学習を計画しますか？

指導医のサイン \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## ローテート終了時の指導医による評価

ローテート終了時、教員の先生方に実習の評価をしてもらいます。

※教員の先生方へ:学習契約で学生が自ら立てた学習目標を参考に、学生の評価をお願いいたします。この学生が将来立派な医師になり、一人で患者を診察するようになることをイメージしていただき、是非建設的なご意見をお願いいたします。

診療科 \_\_\_\_\_ 科

個別の学習目標設定(学習契約)で記入した臨床実習における学習目標  
(学生が記入)

- 1.
- 2.
- 3.

1. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学習目標をもとに、よかった点をあげてください。

2. 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学習目標をもとに、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。

3. その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

日時 \_\_\_\_\_

指導医のサイン \_\_\_\_\_

## 学生による臨床実習の評価

本学の臨床実習の改善のため、実際に実習を受けた皆さんの意見を聞かせて下さい。本評価は無記名式で行われ、皆さんの学業成績に影響することはありません。ネガティブな部分については建設的な意見を書き加えることを期待します。

1. この科の臨床実習でよかった点を書いて下さい
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
2. この科の臨床実習で改善したほうがよいと感じる点を書いて下さい
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
3. この科の臨床実習で学べたことを最初に立てた学習目標を参考に書いて下さい
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
4. この科の臨床実習での Best Teacher を一人あげて下さい
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
5. 点数をつけるとしたら、この科の臨床実習は 100 点満点中何点ですか？

(                      点 / 100 点 )

6. 最後に、臨床実習を担当してくれた先生に一言お願いします

ご協力をありがとうございました  
〇〇大学医学部教務委員会

**診療参加型臨床実習等における「経験と評価の記録」案(例示)**

**平成 23 年度先導的大学改革推進委託事業**

**「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究」医学チーム**